

# 2021年10月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時  
2021年10月02日(土) 10:00~17:00

2. 開催場所  
Teamsを用いてのリモート(オンライン)

3. 会員参加者<敬称略>S: オンサイト出席・L: オンライン出席、欠: 欠席、書: 書記、休: 休会

大見	L	牧野	L	横尾	欠	杉浦	L	城越	L	合田	L	伊藤	L	舟山	L
出島	L	福田	L	水田	L	山中	L	小峰	L	山口(展)	L	黒田	L	鈴木	書
古谷	L	池田	L	三浦	L	岡本専務	L								
小西	休	中山	休	山口(直)	休	庄内	休	李	休	河合	休	則尾	休		

4. 研究会内容

## 1) 輪講: ロバスト設計のための機能性評価 第20章 (担当: 黒田、サポート: 水田)

20.1 OFF時の機能性: 写真の保存条件による影響  
20.2 ON時の機能性: 写真を撮るときの条件(光量と露光時間)による影響  
20.3総合評価: OFF時ON時の両方を組み合わせた直行表  
20.4デンベル変換による統合: OFF時ON時のデータをデンベル変換  
20.5テストパターンによる方法: 光量のデータを用いない場合

## 2) 現場で使えるMT法関連手法 (山口(展))

・生産現場への導入実績獲得のため、現状の量産計測データのみで重回帰とMT法を実施した。判定精度は上々。  
・計測データが増えると自動で単位区間が再計算される仕組みをExcelでつくり、新規投資なしで現場実装。  
・今後は設備情報をパラメータとして加え、不具合の予兆検出などの工程監視も目指したい。

## 3) 研究開発プロセス研究会、現場への手法導入 (池田)

開発プロセスWGに関し、これまでのWG活動の概要、および、WGで議論された設計開発の現場で有用と思われるトピックを紹介した。

## 4) 手法説明の進め方検討 (福田)

解説候補の手法を再度募集し、解説する順番を決定した。全4回に分けて11月移行に解説していく。また解説資料の内容について何を解説してほしいかポイントを整理した。解説手法と内容のポイントを整理できたため、順次資料を作成していく。

## 5) 11月芝野さん講演テーマ検討

11月に、基本機能について講演していただく。会員の方で、特にお話しいただきたい内容の確認を行った。

## 6) ICRQES参加報告 (出島)

ZOOMを活用した動画配信によるリモート開催であった。議論はスラック上で行われた。諸外国の品質工学実践メンバーと交流して活動の方向性を理解できる意義があった。語学(英語)面で準備が必要だと考える。マルチ機能窓法の初めての実践例公開があったので、内容を紹介した。

## 7) 事務局連絡

①研究会開催: 今後は「リモート主体+リアルもあり」の方向で、状況を見ながら判断する。  
②事例テーマ相談の活性化  
③サーバーについて: どこでもキャビネットに移行中、今月には準備可能。IDパスワード未連絡の方は伊藤社長に連絡すること。  
④講演会: 芝野さんに11月に基本機能について講演いただく予定。  
⑤改善事例の紹介、QE解説: 要望を聞き実施する。  
⑥分科会: やらない方向。  
⑦対外関係  
・中品協業務改善事例発表大会: 参加者把握したいので、出れない方は岡本専務理事に連絡する。  
・品質工学シンポジウム: 申込みを忘れている方は申し込むこと。